



# 南条つ子

南条小学校だより

南条つ子は 進んで学ぶ子

R2.6.5

No.8

思いやりのある子

かっぱいやりぬく子

目標 ともに学び 豊かな心で未来を切り拓く子の育成



## ○ 野菜苗植え（2年生 生活科）

・・・昨年は、5月29日に行いました。

6月4日(木)、2年生が、生活科の時間に、ナス、オクラ、ピーマン、ミニトマト、枝豆(大豆)、かぼちゃの6種類の中から1つを選んで、自分用のプランターに植えました。(人気があったのは、「オクラ」でした。)とても手際よく、上手に植えることができました。これから、水やり等、責任を持ってしっかり世話をしてほしいと思います。



## ○ 歯と口の健康週間

毎年6月4日は、6(む)4(し)の語呂合わせで、「むし歯予防デー」となっています。また、6月10日までの1週間は、「歯と口の健康週間」と定められ、歯と口の健康に関する正しい知識を持ち、歯科疾患(歯の病気)の予防や早期発見・早期治療の徹底により歯の寿命を延ばすことを、日本歯科医師会などが呼びかけています。



今年度は、新型コロナウイルス感染症予防により、歯科検診はまだ行われていませんが、昨年度は、むし歯が未処置のままになっている児童が、全校で67名(25%)いました。

なかなか歯科医へ行きにくい状況ですので、一人一人がしっかり予防に努めましょう。

【漢字のご先祖様(亀甲獣骨文字)】 下の写真は、福井県立図書館にあるレプリカです。

A



B



漢字は、今から3300年ほど前に中国で生まれました。左下の写真のように、亀の甲羅(A)や牛の肩などの骨(B)に、絵のような文字が彫られ、古い記録などが残されています。硬い骨に残すのですから、文字を「書く」と言うよりは、「刻む」とか「彫る」と言う方が正しいでしょう。亀の甲羅に残された文字を「亀甲文字」、牛の肩などの骨に残された文字を「獣骨文字」、あわせて「亀甲獣骨文字」と言います。保護者の方は、歴史の授業で、「甲骨文字」という言い方で習っています。この「甲骨文字」こそが、今使われている漢字のご先祖様です。

突然、漢字の話になって不思議だと思われたでしょうが、実は、今から3000年以上前に生まれた「甲骨文字」の中にも、「むし歯」を表す文字があったのです。

①



読み方

歯(シ、は)

②



齧(ウ、むしば)

③



虫(チュウ、むし)

①は、「歯」を表す「甲骨文字」です。そして、②が「むし歯」を表す「甲骨文字」で、今は、「齧」と書きます。②をよく見ると、歯の中に③のような頭と尻尾のようなものがついた形のもが見えます。③は「虫」を表す「甲骨文字」で、②は歯の中に虫がいて、何か悪さをしているという意味をあらわしているのでしょう。大昔の中国の人たちも、きっとむし歯に苦しんだのでしょね。 ※むし歯のことを「う歯」と言い、漢字では「齧歯」と書きます。

「虫」の「甲骨文字」が出てきましたので、「虫」という漢字についても説明します。「虫」という漢字は、もともと3種類あって、意味によって使い分けていました。

し → 𧈧 → 𧈩 → 虫 意味は、「蛇などの爬虫類」

𧈪 → 𧈫 → 𧈬 → 𧈭 意味は、「昆虫」

※漢字の形が変わっていききました 𧈮 → 𧈯 意味は、「密集する小さな虫」 ※同じ漢字が3つ集まってできている漢字は、「たくさんある(いる)」ことを意味しています。

今は、「虫」という漢字1種類だけが使われています。むし歯を表す「齧」という漢字の「甲骨文字」では、歯の中に蛇がいるということになります。とても気持ちが悪いです。

また、「風」という漢字の中にも、「虫」という漢字が入っています。この場合の「虫」は、中国の伝説上の最大の爬虫類である「竜」を表し、風は「竜」の姿をした神様が動き回ることによって吹くものと考えられていました。漢字の意味や成り立ちを知ると、漢字の勉強もおもしろいかもかもしれませんね。 ※説明内容は、福井県出身の漢字学者 白川静先生の説によるものです。

今週から本格的に学校が再開されました。久しぶりの学校生活で、午後まで授業がありませんし、暑くもなってきましたので、子どもたちの様子が心配でしたが、不自由さがある中でも本当によく頑張ってくれました。土日もしっかり休んで、また来週元気に登校してください。